

提言 2019 統一地方選
次の北海道 ⑰



まちづくり団体会長 新藤 大次郎氏(71)

道議会の「特権」改めよ

しんどう・だいじろう 空知管内南幌町出身。天然水販売の北海道良水(札幌)など経営。16年、北海道の未来を拓(ひらく)会を設立。

成します。せめて議会がない時に一般道民が利用できればよいのですが、予定はないそうです。道議会にはほかにも、道民には理解し難い慣習があります。質問と答弁を「てにをは」まですり合わせる答弁調整は、10年以上前に片山善博元総務相が「学芸会」と批判しましたが、改善されていません。地方自治の危機を感じます。

道の施設は大半が禁煙なのに、道議会庁舎では今でも分煙すら徹底されていません。愛煙家の議員が幅を利かせているからです。

政務活動費の使い方も、1年に何回も海外視察に行ったり、居酒屋での仲間内での飲み会に使ったり、他の自治体に比べて甘い。使idoや領収書をインターネットで公開し、市民がチェックできるようにするのは時代の流れです。

議員特権に映る数々の問題を、自治の基本に立ち返りどう改革するか、争点にするべきです。(聞き手・報道センター

佐藤陽介)

4年前の知事選や道議選で「道の予算を110億円以上使い、道議会専用庁舎を建て替える」と訴えた候補は一人もいません。選挙後の報道で計画が知れ渡り、北海道新聞の世論調査(2016年7月)で賛成が4%だったのに、建設工事が進んでいます。

高橋はるみ知事や道議は「道民の代表である知事や道議会が決めた。それが民意だ」との立場です。でも建て替えに関する道議会の協議会は10年以降、三十数回が全て非公開でした。私が所属する団体が16年、この問題に関する公開討論会への参加を知事や議長に求めても、拒まれました。

手続きは透明性を欠き、民意を反映したとは言えません。賛否ある巨額事業が、選挙をくぐらず決まったわけです。

今より大きくて立派な地上6階、地下1階の施設が、来年完